定価 200円（消費税込み）　年間購読料 3,000円（送料含む）

民主 号外

平成9年4月25日 第3種郵便物認可

衆議院議員

やまのい和則

国会ニュース　第91号　2005年7月2日（1995年11月〜）

民主 PRESS MINSHU

京都事務所
〒610-0101 京都府城陽市平川茶屋裏58-1
TEL.0774-54-0703 FAX.0774-54-0705
E-mail kyoto@yamanoi.net
国会事務所
〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第1議員会館240号室
TEL.03-3508-7240 FAX.03-3508-8882
E-mail tokyo@yamanoi.net

発行：民主党プレス民主編集部
東京都千代田区永田町1-11-1 TEL.03-3395-9988(代表)

政権交代なくして未来なし

拝啓　暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。私も衆議院議員として六年目の夏を迎えています。皆様のおかげで、世直しのため、京都南部のために、全力で働かせて頂いています。本当に有難うございます。

さて、この五年間を振り返ってつくづく感じるのは、政治の行き詰まりです。かけ声ばかりで進まない地方分権。悪化の一方をたどるアジア諸国との関係。若者にまで広がった雇用不安。所得の格差の拡大。増大する国と地方の借金。さらに、深刻なのは3万人を超える自殺者です。

国がもっとスリム化し、大胆に財源や権限を地方に移すべきです。そうしなければ行政のムダも省けません。しがらみだらけの今の政権では、改革は不可能です。

政権交代なくして、改革はできません。次の衆議院選挙は、政権交代が最大の争点になると思います。皆さんの一票で政権を変えることができる。そんな国民が主役の政治になれば、政治はもっと緊張感のあるものになります。今は問題を放置しても、政権交代にはならないというぬるま湯が政治を堕落させています。

このニュースでは、地元の課題と、私の専門分野の社会保障に関する国会論戦を報告します。安心して暮らせる社会づくりのため、地元京都南部のため、そして、政権交代という大きな夢に向って、頑張ります。

この国会ニュースへのご意見やご叱正もお気軽にお聞かせ頂ければ有難いです。これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

暑くなりますが、お身体ご自愛ください。

合掌

山井和則拝

1日に16時間の介助を受け、夜間は人工呼吸器をつけながらも地域で自立生活（一人暮らし）する海老原宏美さん。
私は海老原さんのような方が、障害者自立支援法によって、一人暮らしができなくなるのではないかと尾辻大臣に迫りました（2面参照）。

道路構造、整備手順など見直し中

第2名神「大津〜城陽間」
山井議員の質問に谷口道路局長

衆院京都6区選出の山井和則代議士（民主）は25日開かれた衆院決算行政監視委員会第分科会で、地元の関心が高い第2名神自動車道の「抜本的見直し」区間について質問、国土交通省は整備手法などについて検討している、と建設を前提とした考えを進めていることを明らかにした。同省はこれまでも、幹部職員が建設推進の基本要望などに対し建設の意向をくり返し表明しているが、公式の場での表明は初めて。

「自民党議員の[illegible]方で進め、[illegible]をする無駄な高速道路は造らない」ことを目的とした道路公団民営化の枠組みを決めた03年12月、小泉内閣は建設凍結もありうる「抜本的見直し」の5区間（143キロ）を明示した。この内3区間はすでに国道としての建設を決め、「大津市〜城陽市間」（25キロ）と「八幡市〜高槻市間」（10キロ）だけが宙ぶらりんの状態にあった。

山井議員は、「地元市町では、第2名神を前提とした都市計画が行われており、早期の着工を望む声が自治体や経済界から強まっている。一方で、環境への配慮を求める市民からは、抜本的見直しによりコストが削減されると環境対策がおろそかになるのではとの不安も出ている。今後の見通しは」とたずねた。

これに対し国土交通省の谷口博昭道路局長は「第2名神は、名神のバックアップの役割もあり、全体につながらないと意味がない。抜本的見直し区間については、現在整備を一時中断して、費用対効果、道路構造、整備手法順等文字通り抜本的見直しを行っている。民営化も10月にされることから、出来るだけ早期にとりまとめさせいたいと考えている」と答えた。

山井議員はさらに「7月までに案を作って、地元自治体に提示するということか」と問い掛けたのに対し局長は、「いろいろ手順もあるので、検討状況を踏まえて対処したい」と明確に答えることを避けた。

洛南タイムス　2005年4月26日

やまのい和則が

Kazunori Yamanoi The Diet News Vol.91 Top Topics

交通問題・地元経済を国会で問う

第二名神の今後の見通しを国会質問

「第二名神の今後の見通しを早期に示して欲しい」

現状では、第二名神を建設するという国の方針に変わりはありません。しかし、抜本的見直し区間として、高槻―大津間は、2車線にするか、4車線にするか、いかにコストダウンをはかるか、などの見直しがなされています。

そこで私は、既に施工命令の出ている城陽―八幡間の早期着工を求め、さらに高槻―八幡間、城陽―大津間については、「今後の見通しを早期に示して欲しい」と、切実な地元自治体や経済界の声を国交省に訴えました。

国交省道路局長からは、「十月には（道路公団が）民営化するので、早期に（抜本的見直し案を）取りまとめたい」との答弁を得ました。十月まで、遅くとも来年四月までには見直し後の計画が明らかになるように引き続き努力します。

一方、環境や騒音の問題を危惧する声も根強くあります。私は、「コストダウンのあまり、環境・騒音対策がおろそかにならないように」と国土交通省に強く要望しました。

私は、「第二名神ができれば、京都南部はバラ色」という考えは持っていませんが、次のような理由で、早期着工が必要と考えます。

京都高速、第二京阪道、京奈和道と第二名神がつながれば、京都南部の交通アクセスは大幅に良くなり、停滞する学研都市の起爆剤にもなります。

第二名神の計画が宙に浮いたままでは、沿線の八幡市、京田辺市、城陽市、宇治田原町の都市計画や京都南部の将来像の見通しが立たず、城陽の山砂利採取跡地整備のメドも立ちません。

第二名神は、京都南部と中部圏・中部国際空港を短時間で結び、京都南部の産業発展につながります。

第二名神
ネットワークイメージ図

答弁する
谷口博昭国土交通省道路局長
「10月には（道路公団が）民営化するので、早期に取りまとめたい」